

船舶事故調査報告書

平成22年4月8日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成20年12月20日 07時02分ごろ
発生場所	福岡県北九州市藍島東方沖 藍島港大泊東2防波堤灯台から真方位074° 820m付近 （概位 北緯33° 59.7′ 東経130° 49.9′）
事故調査の経過	平成20年12月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取手続きを行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 <small>ティエン ユン</small> TIAN YUN、1,995トン 9290969（IMO番号）、 <small>フウジョエン ガンシアエン シッピング</small> FUJIAN GANGXIANG SHIPPING CO.,LTD 79.99m×13.60m×7.00m、鋼 ディーゼル機関、1,080kW、2003年7月(竣工年月)
乗組員等に関する情報	船長 男性 43歳 船長免許（中華人民共和国発給） 免許年月日 不明 免状交付年月日 不明 一等航海士 男性 61歳 一等航海士免許（中華人民共和国発給） 免許年月日 不明 免状交付年月日 2006年12月12日
死傷者等	なし
損傷	船首部船底外板に破口
事故の経過	本船は、船長及び一等航海士ほか11人が乗り組み、船首5.05m船尾5.38mの喫水をもって、平成20年12月19日大韓民国 <small>おんさん</small> 温山港を出港し、関門海峡経由で北海道釧路港に向かった。 一等航海士は、甲板手を操舵に当たらせて船橋当直に当たり、12月20日06時48分ごろ藍島港大泊東2防波堤灯台（以下「東防波堤灯台」という。）から009°（真方位、以下同じ。）2.4M付近で、針路を約174°に定めて関門港関門第2航路に向首し、同航路に向かう貨物船が左舷至近に並行する状況下、約9.9ノットの対地速力で航行中、06時59分ごろ、東防波堤灯台から049° 1,400m付近で、左舷前方から接近する漁船を避けるため、針路を右に転じ、約201°とした。 本船は、その漁船とすれ違ったので、一等航海士が元の針路に戻そうと、徐々に左転を始めたところ、07時02分ごろ、東防波堤灯台から074° 820m付近において、船首が浅瀬に乗り揚げた。

<p>気象・海象</p>	<p>気象：天気 快晴、風向 東、風力 5 海象：潮汐 下げ潮中央期、潮高 約0.65m</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし 本船は、一等航海士が藍島東方沖の浅瀬に向けて変針したものと考えられる。 本船は、一等航海士が周囲の同航船や、左舷前方から接近する漁船に注意を奪われ、船位の確認を適切に行わなかった可能性があると考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が関門港の西口付近を関門第2航路に向けて南進中、船位の確認を適切に行わなかったため、福岡県藍島東方沖の浅瀬に向けて変針し、同浅瀬に乗り揚げたことにより発生した可能性があると考えられる。</p>	